

ベルギーのムスリム若者における初婚タイミングの関連要因

Correlates of First Marriage Timing among Muslim Youth in Belgium

小島 宏 (早稲田大学)

Hiroshi KOJIMA (Waseda University)

kojima@waseda.jp

本報告では Ron Lesthaeghe 教授を中心とするベルギー自由大学 (オランダ語圏の VUB)・ゲント大学の人口学研究者集団によって 1995 年前後に実施されたベルギー在住のモロッコ系・トルコ系男性に対する全国調査、『移動歴と社会移動』(Migration History and Social Mobility, MHSM) 調査の個票データを利用する。個票データに Cox 回帰分析 (比例ハザード・モデル) を適用して、ムスリム若年男性における初婚タイミングの人口学的、社会経済的、文化的関連要因を移民世代別、また、民族別に明らかにすることを試みるが、特に兄弟姉妹構成 (兄弟姉妹数・出生順位) を含む人口関連要因の影響に焦点を合わせる。また、それにより、日本への移入開始後ほぼ同じ 30 年を経た滞日ムスリムの分析に対する示唆を得ることを目指す。

分析対象は 35 歳未満のムスリム (自己申告による) に限定した (N=1,511)。従属変数としては年齢 (既婚の場合は初婚年齢、未婚の場合は調査時年齢) を用い、独立変数としては移民世代 (1 世、1.5 世、2 世)、民族 (モロッコ系・トルコ系)、居住都市 (ブリュッセル)、教育 (中等・高等教育)、無業、親の民族同類婚、幼少時コーラン教育通学、兄弟姉妹数 (0~2 人、3 人、4 人)、出生順位 (年長キョウダイ 0 人、1 人、2 人) である。なお、分析には SAS の PHREG プロシージャを用いた。

比例ハザード分析結果によれば、すべての移民世代のムスリム若年男性の分析では移民世代は有意な効果をもたないが、トルコ系とブリュッセル在住であることは初婚の促進効果をもち、中等・高等教育は抑制効果をもつが、無業は同様の傾向があるものの有意な効果をもたない。親の同類婚、コーラン教室通学は初婚促進効果をもつ。兄弟姉妹数が 0~2 人の場合に初婚が抑制され、年長キョウダイ 0 人、すなわち長男の場合に促進される。ほぼ期待通りの結果であるが、これらの変数の影響は移民世代や民族によって異なる。

移民 1 世ではトルコ系、親の民族同類婚、コーラン教室通学が初婚の促進効果をもち続けるものの、他の変数は有意な効果をもたなくなる。また、移民 1.5 世でも移民 1 世とまったく同じ結果となった。これに対して、移民 2 世ではトルコ系、親の民族同類婚が初婚の促進効果をもち続けるものの、コーラン教室通学の効果は逆転して抑制効果をもつようになるが、中等・高等教育の抑制効果が有意でなくなる。

他方、民族別分析を行うと、トルコ系では移民 1 世であること、ブリュッセル居住、親の民族同類婚、コーラン教室通学が初婚の促進効果をもち、中等・高等教育が抑制効果をもつ。全体の分析の結果と同様、兄弟姉妹数が 0~2 人の場合に初婚が抑制され、年長キョウダイ 0 人、すなわち長男の場合に促進される。しかし、モロッコ系では有意な効果をもつ変数が減り、親の民族同類婚の初婚促進効果と中等・高等教育の初婚抑制効果が引き続きみられる一方、これまでみられなかった無業の初婚抑制効果が現れる。

移民 2 世やモロッコ系においては兄弟姉妹構成の有意な影響がみられず、前者ではコーラン教室通学の効果が逆転して抑制効果が現れたり、後者では無業の初婚抑制効果が現れたりした。予備的な多項ロジット分析の結果、これには各種の結婚形態 (配偶者選択法・範囲、結婚後の居住形態) がかかわっている可能性があるため、今後の課題としては競合リスクモデル等による分析も視野に入れてこよう。